

SHQ-1 成分における発ガン性について

SHQ-1の美白主成分であるハイドロキノンの発ガン性について

WHOの外部機関である国際がん研究機関(IARC)ではハイドロキノンをクラス3と評定しております。クラス別の発がん性については下記をご参照下さい。

IARC： International Agency for Research on Cancer(国際がん研究機関) 評定分類

- 1 : 人に対して発がん性が有る
- 2 A : 人に対して恐らく発がん性が有る
- 2 B : 人に対して発がん性が有るかもしれない
- 3 : 人に対する発がん性について分類できない
- 4 : 人に対して恐らく発がん性がない

クラス3では、ハイドロキノンの他に下記のような物質があります。

カフェイン、カラギーナン、コレステロール、シリカ、タルク、タンニン、茶、飲料水（塩素添加）

ちなみにクラス2Bでは、ナフタリン、ニッケル、コーヒー、漬物、ワラビなどが挙げられています。

よって、ハイドロキノンの発ガン性に関する危険性は、上記のクラス3の物質と同程度であると考察する事が妥当と言えます。

よって、SHQ-1は発ガン性に関しては明確な文献が存在していませんが、通常の使用例から、発ガン性は極めて低いと考察する事が妥当と言えます。

平成17年11月5日

環境経営研究所（現・環境経営HDグループ）

技術部 部長 古島 健